



▶ 共生社会の実現に必要な『新しい認知症観』について専門家にインタビュー

誰もが安心して暮らせる未来へ

～新しい認知症観と社会の課題～

認知症介護指導者

小林 良 氏

共生社会を実現するために、国民全体で認知症について考える『認知症基本法』が昨年成立しました。また、法律の成立に先立ち『新しい認知症観』という言葉が生まれました。

「新しい」と強調されるように、世間ではまだまだ認知症に対する誤解や偏見が根強く残っていると見受けられます。多くの方が知るように、認知症になると記憶力などが低下することは事実です。しかし『認知症になると何もわからなくなる』といったイメージは誤ったものです。実際には、認知症になったとしても、周囲の理解や小さな支えがあれば自分らしく生活することが可能です。

私自身、認知症介護指導者として認知症の方と関わ

る中で、認知症の方が私たちと同じように周囲の人との新たな関係を築く姿や他者を思いやる気持ち・感性を持ち続けている姿を見てきました。

認知症に対する偏見や無意識的な差別は、社会全体の課題です。誰もが認知症に関わる可能性がある中、国民全体で認知症を正しく理解し、『新しい認知症観』を持つことは大きな意義があります。

認知症であってもそうでなくても、誰もが幸せに歳を重ね、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会のため、環境や心のバリアをなくし、今より少し周りの人のことを意識してみませんか。市と市民の皆さんで協力し、誰もが暮らしやすいまちを一緒に作っていきましょう。

本庄市の取組

認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守る応援者「認知症サポーター」を養成する講座を開催。こどもから大人、自治会や企業など多くの方が受講しています。



小学生にも認知症サポーター養成講座を実施

ステップアップ講座

認知症サポーターになった方を対象にさらに認知症について理解を深め、市とともに地域づくりを行うボランティアの養成講座を開催しています。



グループワークをとおして地域づくりについて考える

チームオレンジほんじょう

ステップアップ講座を受講したサポーターが「認知症になってもお互い様 笑顔あふれる本庄市」をコンセプトに、地域で活動しています。



ボランティアで認知症の方の外出補助をするサポーター

オレンジウィーク in ほんじょう

チームオレンジサポーターや本庄市の認知症施策に関わる方々が協働し、認知症について知り、理解を深めるためのイベントを開催しています。



認知症に関するパネル展や映画上映などのイベントを実施

『新しい認知症観』が当たり前になることが、認知症に対する偏見をなくし共生社会の一步になります。本庄市は、誰もが安心して暮らせるよう、多くの方に認知症について正しい知識と理解を広める取組を行っています。

人々が新しい認知症観を持つことが
『誰もが自分らしく暮らせる地域』につながる

S O S に 気 づ く ま ち



S O S を 出 せ る ま ち

認知症が当たり前の時代
自分らしく暮らせる地域とは

厚生労働省によると、日本における認知症高齢者の数は高齢者人口のピークを迎える2040年に約584万人と推定されています。これは、65歳以上の約6.7人に1人が認知症になる割合です。自身や家族、大切な人が認知症と診断されることは決して珍しいことはありません。

昨年、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法（以下、認知症基本法）」という法律が施行されました。認知症基本法は、認知症の人が尊厳を保ち、希望を持って暮らすことができるよう、互いを尊重し、地域で支え合いながら共に生きる「共生社会」を実現することを目的として定められました。そして、その共生社会を実現するため国が定めた「認知症施策推進基本計画」では、国民一人ひとりが「新しい認知症観」に立ち、認知症に関する正しい知識と理解を深めることが目標とされました。

認知症が当たり前の時代に「共生社会」を実現し、本庄市を『誰もが自分らしく暮らせる地域』にするため、私たちができることはなんでしょうか。

★高齢者福祉課 ☎ 25・1722

新しい認知症観とは？

「新しい認知症観」は認知症になっても自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。

いままでの認知症観

本人 何もできなくなる
自分の思いを伝えることができない
家族 すべてをやってあげなければいけない
地域 地域では暮らせない・恥ずかしい・隠したい
支えなくてはいけない
市民 自分には関係がないこと
認知症になったらおしまい

新しい認知症観

本人 分かることや、できることが多くある
自分の思いを伝えることができる
家族 周囲の支援やサポートを活用してもよい
地域 地域の支え手のひとりでもある
地域の一員として暮らし続けることができる
市民 自分事として向き合い、備える

「誰もが自分らしく暮らせる地域」をつくる地域の活動

市では認知症サポーター養成講座やステップアップ講座などさまざまな取組を実施しています。そして現在、その活動を地域に広げる取組も行っています。

今回は、ステップアップ講座の内容の一つである「認知症高齢者等SOS模擬訓練」を自治会で初めて実施した小島南自治会の鳥羽孝夫さんと本庄西地域包括支援センター（以下、西包括）の皆さんにお話を伺いました。



▲昨年度実施した訓練の様子

認知症高齢者等 SOS 模擬訓練
認知症の知識や対応方法を学び、何か困り事がありそうな認知症高齢者役に声をかける模擬訓練です。相手の様子や服装から気にかける点、声をかけ始める時の立ち位置などのアドバイスももらえます。

自治会主体で模擬訓練を開催したきっかけはなんですか？
鳥羽さん これからの高齢化社会、認知症について多くの人に知ってもらわなければならないところ、西包括から声をかけてもらった事がきっかけです。そうして西包括に協力してもらい、小島南自治会で定期的に行っているサロンで模擬訓練の体験という形で開催する事ができました。
自治会で模擬訓練を開催して、良かった点は？
西包括 認知症サポーター養成講座を受けた事が無い多くの方にも参加してもらえました。サロンでの開催で、見知った皆さんと一緒に取り組めることが、参加のしやすさにつながったと思います。また、地域のお宅や店舗にも協力を得て、実際の状況に近い雰囲気で行えたため、より実践的な訓練になりました。
鳥羽さん 地域で開催した事で、参加しなかった人の目にも触れ、認知症に関する活動自体の周知にもなりました。自分の住む地域がこのような活動をしていると知ってもら

認知症に関する活動を地域で行う理由とは？

地域が「誰もが自分らしく暮らせる雰囲気」をつくる

えるだけでも安心感につながり、自治会で開催する大きな意義があると思いました。認知症に関する活動を地域で行う理由とは？

鳥羽さん あの人困っているのかな？と気づいた時に、声をかけていい雰囲気地域に醸成するためだと思います。地域全体にそういった雰囲気がない、いざ地域で困っている人に気づいた時、声をかけにくくなってしまいます。困っている人への声かけも、地域であいさつやごみ拾いする感覚の延長線にあるもので、「自分のできる事からやる」事が大切だと思います。
西包括 身近な人の違和感に気づく準備になるという点も重要です。「あの人が最近見てないな」、「ポストに郵便物が溜まったままになっている」といった違和感にいち早く気づく事が、行方不明を未然に防いだり、速やかな捜索につながるかもしれません。

上げられない、助けを求められない認知症の方が多いと思います。SOSに気づいてくれる地域の雰囲気は、自分が困った時にSOSを出しやすい雰囲気にもつながると思います。こういった活動が多く地域に広がっていくといいですね。



鳥羽さん 本庄西地域包括支援センターの皆さん

認知症高齢者等 SOS 模擬訓練に関心のある方は、お近くの地域包括支援センターまたは高齢者福祉課へご相談ください。

認知症が当たり前になった今、私たちにできることはなにか

認知症があってもなくても一人ひとりの役割と権利が尊重され、共に生きていくため、社会全体が持つべき重要な視点が「新しい認知症観」です。

認知症が疑われるような変化に気づいたときは、正しい理解のもと優しい声かけや配慮ができる、自分が困ったときは、相手が理解し受け止めてくれると信頼して打ち明けることができる、そんな地域の信頼関係の積み重ねが安心して暮らせる地域につながるのだと思います。

認知症があってもできることはたくさんあります。諦めるのではなく、希望と意思を持って、自分らしく暮らし続けることができる地域を目指して、私たち一人ひとりにできることを考え行動してみよう。



～認知症や地域の活動についてもっと知りたいと思った方へ～

認知症サポーター養成講座

認知症とともに生きるために、私たちが今できることを一緒に考えてみませんか。

日時 10月7日(火) 午後1時30分～3時
会場 本庄ガス ECO はにぼんプラザ2階活動室D・E
講師 キャラバン・メイト
対象 市内在住・在勤者 **定員** 30名(先着順)
費用 無料 **用意** 筆記用具
申込 9月18日(木)から10月3日(金)までに電話または直接高齢者福祉課へ

ステップアップ講座

日時 10月14日(火)・21日(火)・28日(火) 全3回 午後1時30分～3時30分
会場 本庄ガス ECO はにぼんプラザ2階活動室D・E
講師 認知症地域支援推進員等
対象 認知症サポーター養成講座を受講した市内在住・在勤者で、地域活動に興味のある方
内容 地域活動について、認知症高齢者等 SOS 模擬訓練等
定員 30名(先着順) **費用** 無料
用意 筆記用具
申込 9月18日(木)から10月3日(金)までに電話または直接高齢者福祉課へ

他にもさまざまな講座やイベントを開催しています。詳しくは広報ほんじょうおしらせ版8月15日号をご覧ください。

～困っていそうな方に気づいたとき～ 声をかけてみませんか



困っていそうな人に声をかけてみたけれど、その後どうしたらいいかわからない。そんな時に役に立つものが見守りシールです。

見守りシールとは、二次元コード付きシールをひとり歩き行動のある認知症高齢者等の衣服や持ち物に貼り、行方不明になった際に早期発見するためのサービスです。発見者が二次元コードを読み込むと専用伝言板を介して高齢者等の家族と連絡をとることができます。

困っていそうな方を見かけたら、まずはご本人の正面



から優しくお声がけください。持ち物や衣服に見守りシールが貼られていた際は、読み取りにご協力ください。